



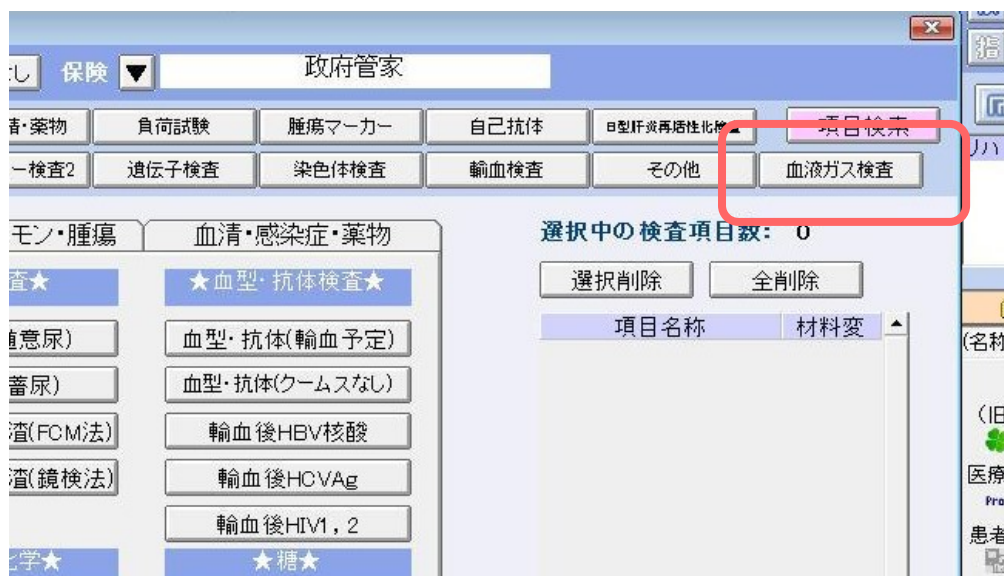
MENU

1. 血液ガスの結果が電子カルテに表示されるようになり一年が経過しました
2. 診療前検査の検体到着から結果報告まで ～凝固検査編～
3. HIV-1型、2型感染症診断は、スクリーニング検査と確認検査で行います
4. 輸血製剤は、こうして扱ってください

1. 血液ガスの結果が電子カルテに表示されるようになり一年が経過しました

血液ガス分析装置（ラジオメーター社）が電子カルテと接続され、検査数が1万5千件を超えました（2017年12月現在）。バーコードを用いて測定することで、結果が電子カルテに表示され、医事会計も同時に処理されます。好評を頂いておりますが、未だオーダーリングを利用せず測定されていることも少なくないのが現状です。試薬や保守にコストがかかっているため、ご協力をお願いいたします。

依頼ボタンは、通常検体検査の右上にあります

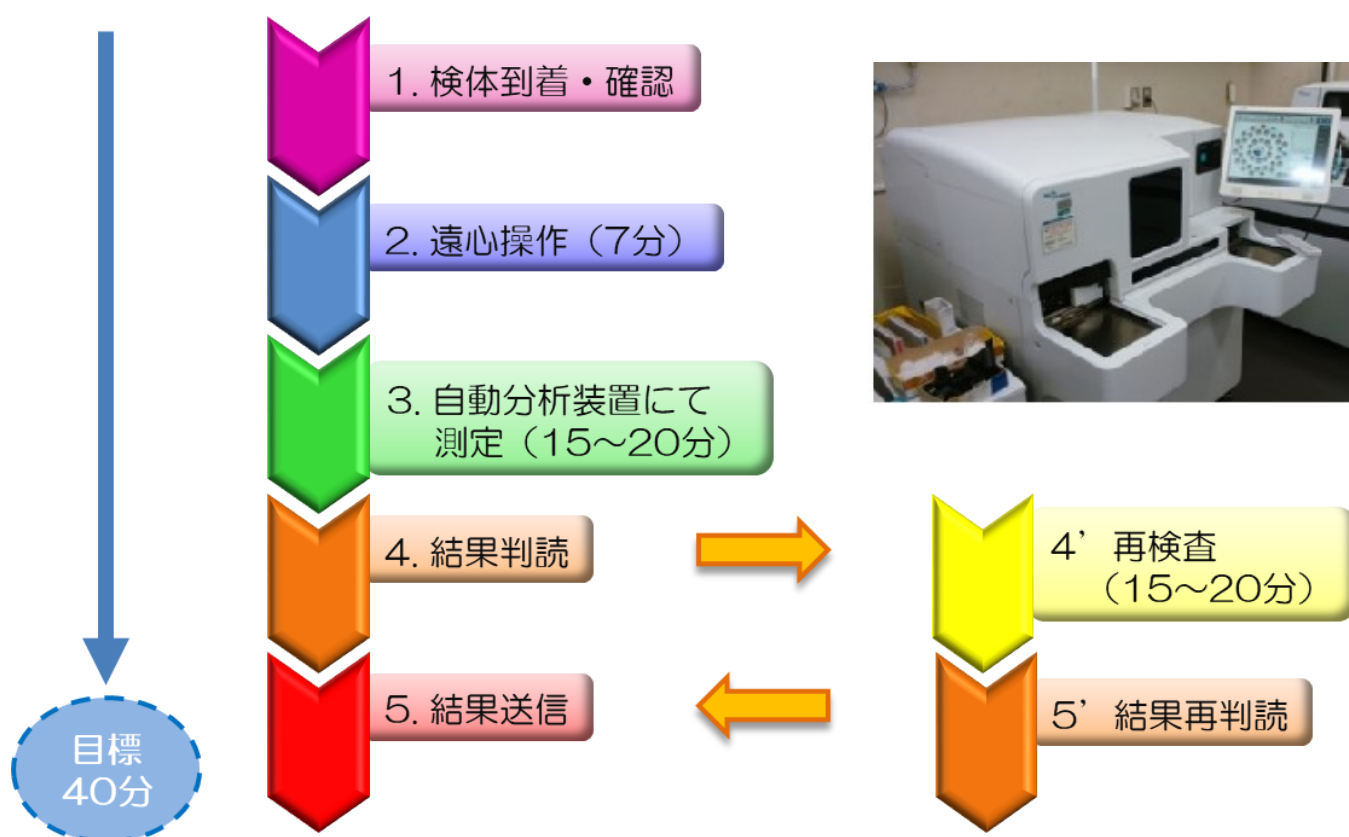


お問い合わせ：副部長室 内線36350

2. 診療前検査の検体到着から結果報告まで ～凝固検査編～

凝固検査では、PT、APTT、フィブリノゲン、トロンボテスト、FDP、Dダイマー、およびAT-Ⅲの7項目を診療前検査として行っています。初回結果報告は「検体到着確認後40分以内」を目標にしています。しかし、初回値が基準範囲外の時や前回値と大きく異なった場合は再検査を、測定上限値を超えた場合には希釈再検をするため、さらに15～20分程度、結果報告に時間を要します。

結果報告までの流れ



*再検査・希釈検査は、全検体中の約4%で行われています。

採血量の注意事項

- 凝固検査では、正確な採血量が必要です。各種採血管の目安線まで、血液を入れて下さい。
- 当院では、3種の採血管を準備していますので、適宜ご使用下さい。

- ①通常用 (2.7mL)
- ②小児用 (1.8mL)
- ③ベビー用 (0.9mL)

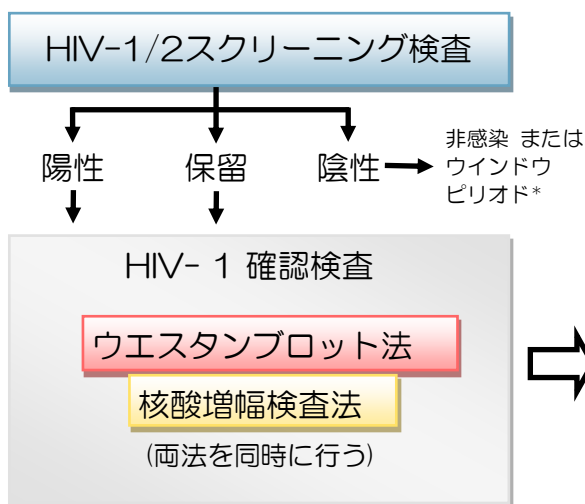


- ①
- ②
- ③

お問い合わせ：血液検査室 内線36440

3. HIV-1型、2型感染症診断はスクリーニング検査と確認検査で行います

HIV-1型、2型感染症の診断は、日本エイズ学会・日本臨床検査医学会の標準推奨法(2008年版)を参考にして、行っています。スクリーニング検査(HIV-1/2抗原抗体検査)の後は、必ず確認検査(ウエスタンブロット法と核酸増幅検査法)を実施し、診断します。



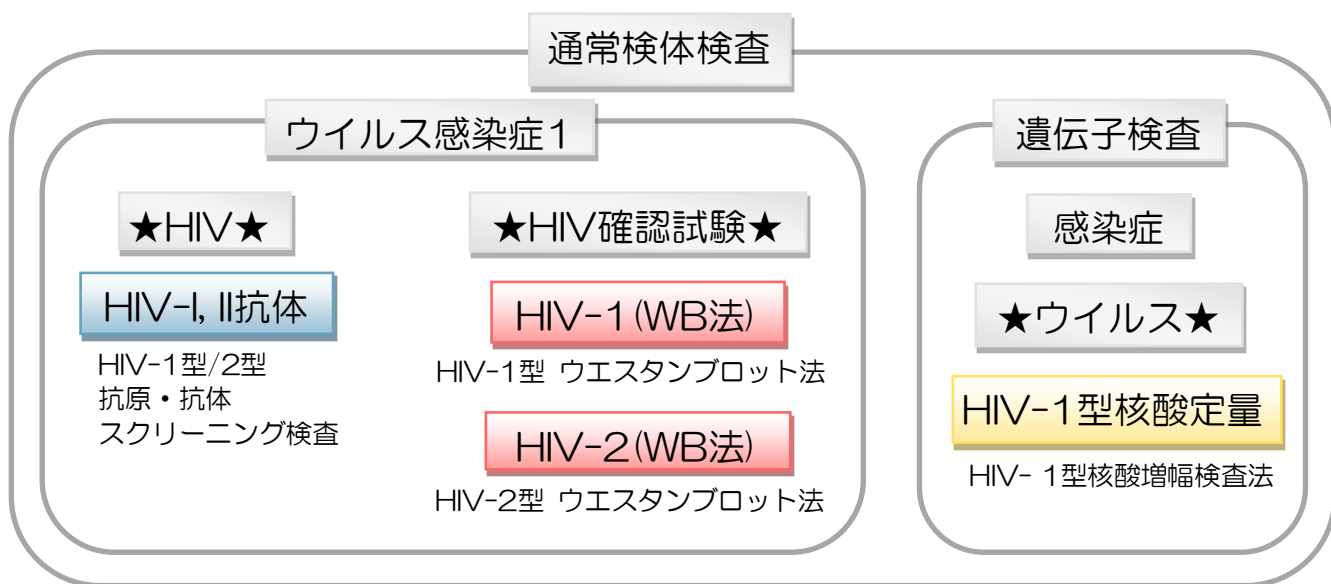
日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 推奨検査法

確認検査		判定・指示
ウエスタンブロット法	核酸増幅検査法	
陽性	陽性	HIV-1感染者
	検出せず	HIV-1感染者
保留	陽性	急性HIV-1感染者
	検出せず	HIV-2の確認検査を実施、陰性時は保留とし2週間後再検査
陰性	陽性	急性HIV-1感染者
	検出せず	HIV-2の確認検査を実施、陰性時は保留とし2週間後再検査

*感染初期では検査で陰性となり、感染していることが解らない時期

従来日本国内において報告のなかったHIV-2型の感染症例が複数報告されているので、注意が必要です。

まずは、スクリーニング検査のみオーダーし、その結果に応じて、確認試験のオーダーをお願いいたします。オーダー方法は、下図をご参照下さい。



お問い合わせ：血清検査室 内線36460

4. 輸血製剤は、こうして扱ってください

不適切な取り扱いによる輸血製剤の廃棄や輸血効果の低下を防ぐため、適切な温度・条件での輸血製剤の取り扱いをお願いいたします。

製剤の外観に異常を認めた場合は使用せずに検査部へ直ちに連絡、使用しなくなった製剤は速やかに返却願います。以下に代表的な輸血製剤の保存・取り扱い方法を示します。

赤血球液（RBC）

保存温度：2～6℃

- *通常、冷蔵庫から出してそのまま使用できます。
- 室温放置、凍結あるいは加温によって、製剤の品質に影響を与える可能性があります。

価格：16,805円（2単位1バッグ）



新鮮凍結血漿（FFP）

保存温度：-20℃以下

- *物理的衝撃に弱く破損することがありますので、取り扱いに注意してください。
- 検査部より専用の融解装置を貸し出しています。

価格：17,912円（240mL1バッグ）



濃厚血小板（PC）

保存温度：20～24℃で**振盪**

- *納品時の使用期限は当日（長くて2日以内）。
- 使用まで検査部で振盪保管できます。

価格：79,875円（10単位1バッグ）



お問い合わせ：輸血検査室 内線36410
：緊急検査室 内線36360

広報委員：遠藤明美、古谷大輔、近藤 崇、米澤 仁、高橋祐輔、田本悠佳